



2019年11月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年7月11日

上場会社名 イワキ株式会社

上場取引所 東

コード番号 8095 URL <https://www.iwaki-kk.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岩城 慶太郎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理財務部長 (氏名) 熱海 正昭 TEL 03-3279-0481

四半期報告書提出予定日 2019年7月12日 配当支払開始予定日 2019年8月9日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2019年11月期第2四半期の連結業績(2018年12月1日～2019年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年11月期第2四半期	31,054	7.0	1,278	49.0	1,333	46.4	891	44.4
2018年11月期第2四半期	29,024	3.5	857	3.7	910	0.3	617	28.8

(注) 包括利益 2019年11月期第2四半期 515百万円 (24.7%) 2018年11月期第2四半期 684百万円 (35.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年11月期第2四半期	27.40	
2018年11月期第2四半期	19.13	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年11月期第2四半期	41,324	19,646	47.5	600.04
2018年11月期	41,431	19,219	46.3	591.72

(参考) 自己資本 2019年11月期第2四半期 19,609百万円 2018年11月期 19,187百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年11月期		5.00		5.50	10.50
2019年11月期		6.00			
2019年11月期(予想)				6.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

配当予想の修正については、本日(2019年7月11日)公表いたしました「剰余金の配当(中間配当)の決定及び期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2019年11月期の連結業績予想(2018年12月1日～2019年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	63,000	4.9	2,000	8.2	2,000	0.0	1,550	9.6	47.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年11月期2Q	34,636,058 株	2018年11月期	34,508,789 株
期末自己株式数	2019年11月期2Q	1,956,109 株	2018年11月期	2,082,406 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年11月期2Q	32,534,011 株	2018年11月期2Q	32,273,016 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の経済環境予測等の前提に基づいて作成したものであり、実際の実績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。詳細につきましては、添付資料の「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2018年12月1日～2019年5月31日）における我が国経済は、輸出や生産の弱さが続いているものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復いたしました。

このような状況のもと、当社グループでは、さらなる成長と企業価値の向上を目指して策定した、創業111周年を迎える2025年11月期へ向けた中長期ビジョン及び3ヵ年の中期経営計画を推進するため、各事業での主要施策の展開に注力してまいりました。

以上により、当第2四半期連結累計期間の売上高は310億5千4百万円（前年同期比7.0%増）、営業利益は12億7千8百万円（同49.0%増）、経常利益は13億3千3百万円（同46.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は8億9千1百万円（同44.4%増）となりました。

次にセグメントの概況につきご報告申し上げます。

医薬・FC事業

医薬品原料市場におきましては、10月の消費税法改正に伴う薬価改定を控え、在庫圧縮と買い控えを実施するジェネリックメーカーが多く、また中国江蘇省の爆発事故により、中国内の中間体製造がストップし、一部日本国内原料メーカーが製造できない状況となり、業界全体は低調に推移しております。

このような状況のもと、医薬品原料分野では、安定供給を前提とし、原料メーカーへの中間体の複数ソース化、中国以外の諸外国の原料提案、新薬メーカー向けに主要中間体、溶剤関連の提案活動に注力いたしました。新規分野に関しましては、核酸医薬・アミノ酸関連医薬品中間体分野へ取り組みを開始いたしました。その結果、一部中国産原料が入手困難な状況となりましたが、代替原料の提案による供給の安定化を図り、既存の医薬品原料の製造販売は堅調に推移いたしました。また、潰瘍性大腸炎治療薬・脳血栓治療薬原料が好調に推移し、売上・営業利益共に伸長いたしました。

医薬品市場におきましては、医療用医薬品は、政府の後発医薬品促進策によるジェネリック医薬品の拡大が頭打ちとなる一方、当社の主力製品である外用剤の拡大は緩やかであり、今後も数量ベースでの伸長が期待されます。また、一般用医薬品市場におきましては、予防意識の高まりもあり、市場は漸増傾向にあります。

このような状況のもと、医療用医薬品分野では、安定供給体制のもと、基礎的医薬品を含む主要外用剤を中心に男性型脱毛治療薬などを加え、調剤薬局・DPC病院等の医療機関において適切な情報提供活動に取り組むとともに、製品の採算性に関する見直し対応を進めてまいりました。その結果、主力の外用剤は全般的に販売が好調に推移し、特に副腎皮質ホルモン剤など主力品の売上が伸長いたしました。一般用医薬品におきまして「ビタミンC末」は低調に推移しましたが、外用剤提携品の売上が伸長いたしました。また営業利益は、基礎的医薬品「デルモゾールG」の販売が堅調に推移したことに加え、高薬価品の生産増加、先行開発費の減少等により伸長いたしました。

以上により、当事業全体の売上高は120億2千9百万円（前年同期比13.4%増）、営業利益は12億2千6百万円（同59.3%増）となりました。

HBC事業

機能的食品原料及び化粧品原料市場におきましては、機能的食品における海外向け需要の好調、化粧品におけるインバウンド需要や高機能化粧品原料の需要増加などにより堅調に推移いたしました。

このような状況のもと、機能的食品原料分野では、自社企画品の提案強化、既存顧客との取引拡大に取り組んでまいりました。一方、化粧品原料分野では、新規自社原料の発売、輸入原料の拡販などに注力いたしました。その結果、機能的食品原料分野は、一部原料の需給逼迫や複数社購買の影響などにより低調に推移いたしました。化粧品原料分野は、市場の好調を背景に主力原料・自社原料が伸長し、堅調に推移いたしました。

ドラッグストア・薬局・薬店を主とした市場におきましては、インバウンド需要に落ち着きが見られるなか、一般用医薬品・化粧品・食品などの好調により全体的には堅調に推移いたしました。

このような状況のもと、一般用医薬品を主体とした卸売分野では、自社企画品の提案強化、海外向け販売及び既存顧客との取引の拡大に向けた施策に取り組むとともに、新規顧客開拓に取り組んでまいりました。その結果、既存顧客との取引拡大、海外向け販売に一定の成果が得られ堅調に推移いたしました。しかしながら物流費の高騰などによる費用の増加により、営業利益は低調に推移いたしました。

通販化粧品市場におきましては、主要企業の好調並びに大手e-コマース企業の牽引による通信販売市場の拡大や化粧品市場におけるEC化率の拡大などにより堅調に推移いたしました。

このような状況のもと、通販化粧品分野では、新製品の開発及び発売、新規顧客の開拓・既存顧客へのプロモーション活動の強化、クロスセル（関連商品の提案・販売促進）向上に注力するとともに、海外での販売に向けた検討を進めてまいりました。その結果、新規顧客向け売上高は計画を下回りましたが、主力製品の既存顧客向けプロモーションの好調により全体では堅調に推移いたしました。

以上により、当事業全体の売上高は123億5千万円（前年同期比1.6%増）、営業利益は3千5百万円（同57.3%減）となりました。

化学品事業

表面処理薬品市場におきましては、プリント基板市場は市場を牽引してきた携帯端末の販売に陰りが見え、米中貿易摩擦の影響もあり不透明な環境が続いております。また、期待する5G（第5世代移動通信システム）もまだ具体的な影響は見られず、上半期は厳しい状況が続きました。対してチップ部品やセンサー、パワーモジュールは好調を持続しております。

このような状況のもと、表面処理薬品分野では、プリント配線板向けセグメントといたしましては、引き続きビアフィリング用硫酸銅めっき添加剤・ドライフィルム剥離剤の販促に力を入れ、半導体向けセグメントといたしましては、パンプ形成用めっき・シード層エッチング剤の拡販を継続しました。また自動車市場に着目し、新たに亜鉛合金めっきをラインアップとして加えております。その結果、新たな取り組みは販売を底上げしておりますが、中華圏の減速もあり、前年比は大きく伸びているものの堅調に推移いたしました。

表面処理設備市場におきましては、主軸であるスマートフォン市場では、2020年にサービスが開始される5G通信への期待感はあるものの、本体価格の上昇により、買い換え需要が鈍化傾向にあります。また電装化が進む自動車業界におきましても、在庫調整による一時的な需要低迷があり、プリント基板業界全体の設備投資が先送りされている状況にあります。

このような状況のもと、表面処理設備分野では、装置標準化や改善提案による利益改善運動を推し進めるとともに、自動車業界向けに開発したエッチング装置は、早期市場展開を目的とした改良を進め、またパッケージ基板においては、さらなる微細回路形成の要求があることから、二流体を併用した現像装置による回路形成を進めております。その結果、自動車業界向けエッチング装置では予定した以上の性能を発揮し、パッケージ基板向けの現像装置は、これまで以上の微細回路形成が可能となりましたが、設備投資が先送りされている市場の影響を受けて、堅調に推移いたしました。

以上により、当事業全体の売上高は35億5百万円（前年同期比13.2%増）、営業利益は1千4百万円（前年同期は2百万円の営業損失）となりました。

食品事業

食品原料市場におきましては、国内市場の成熟化が進むなかで、多様化する消費者ニーズ、食の安全・安心への取り組み、環境の変化に即した安定供給体制の構築、人手不足による人件費や物流コストの上昇などへの対応が求められました。

このような状況のもと、食品原料分野では、関連会社での受託加工提案、健康志向食品向け原料の提案及び海外向け販売の強化、新規原料の提案・既存原料の販売拡大に取り組んでまいりました。その結果、顧客の製品終売による原料販売の減少などの影響がありましたが、既存原料の拡大、健康志向食品向け原料の需要増加により全体的には堅調に推移いたしました。

以上により、当事業全体の売上高は21億7千9百万円（前年同期比2.9%増）、営業損失は1千万円（前年同期は8百万円の営業損失）となりました。

その他

当事業全体の売上高は9億8千9百万円（前年同期比5.5%減）、営業利益は1千2百万円（同33.5%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の財政状態につきましては、総資産413億2千4百万円（前連結会計年度末比1億6百万円減）、負債合計216億7千7百万円（同5億3千4百万円減）、純資産は196億4千6百万円（同4億2千7百万円増）となりました。

総資産の減少の主な理由は、受取手形及び売掛金の減少4億1千5百万円、商品及び製品の増加4億2千4百万円、投資有価証券の減少5億3千4百万円によるものです。負債合計の減少の主な理由は、支払手形及び買掛金の減少4億7百万円、電子記録債務の増加1億7千1百万円、繰延税金負債の減少2億5千7百万円によるものです。純資産の増加の主な理由は、利益剰余金の増加7億5百万円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年11月期の業績予想につきましては、2019年1月11日に公表しました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,746,385	4,634,317
受取手形及び売掛金	14,672,473	14,256,572
電子記録債権	2,031,728	2,239,432
商品及び製品	3,488,012	3,912,395
仕掛品	1,199,466	1,333,193
原材料及び貯蔵品	1,084,059	1,221,041
その他	678,453	610,093
貸倒引当金	△55,755	△51,853
流動資産合計	27,844,825	28,155,193
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	8,470,103	8,508,585
減価償却累計額	△6,045,597	△6,088,372
建物及び構築物（純額）	2,424,506	2,420,212
機械装置及び運搬具	8,208,419	8,269,907
減価償却累計額	△7,483,842	△7,558,209
機械装置及び運搬具（純額）	724,577	711,697
土地	3,411,935	3,411,548
その他	3,101,293	3,225,350
減価償却累計額	△2,479,043	△2,551,882
その他（純額）	622,249	673,468
建設仮勘定	194,492	367,204
有形固定資産合計	7,377,760	7,584,130
無形固定資産		
のれん	389,669	379,678
技術資産	429,975	418,950
顧客関連資産	125,000	119,990
その他	186,305	247,005
無形固定資産合計	1,130,950	1,165,623
投資その他の資産		
投資有価証券	3,930,978	3,396,089
その他	1,199,198	1,074,403
貸倒引当金	△52,681	△51,292
投資その他の資産合計	5,077,495	4,419,200
固定資産合計	13,586,206	13,168,954
資産合計	41,431,031	41,324,148

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2018年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,586,857	9,179,601
電子記録債務	3,179,902	3,351,631
短期借入金	3,296,800	3,496,800
未払費用	1,617,238	1,499,906
未払法人税等	456,795	467,174
賞与引当金	64,372	52,492
返品調整引当金	10,350	13,700
製品保証引当金	10,713	8,500
ポイント引当金	411	—
その他	811,176	710,187
流動負債合計	19,034,618	18,779,993
固定負債		
長期借入金	452,000	403,600
繰延税金負債	509,476	252,060
株式報酬引当金	109,628	83,331
退職給付に係る負債	1,668,447	1,698,233
その他	437,305	460,203
固定負債合計	3,176,857	2,897,428
負債合計	22,211,476	21,677,422
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,637,080	2,663,679
資本剰余金	4,254,389	4,280,988
利益剰余金	11,285,393	11,991,329
自己株式	△595,470	△552,615
株主資本合計	17,581,392	18,383,382
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,477,343	1,093,745
繰延ヘッジ損益	3,923	466
為替換算調整勘定	77,203	67,849
退職給付に係る調整累計額	47,603	63,982
その他の包括利益累計額合計	1,606,073	1,226,043
非支配株主持分	32,089	37,300
純資産合計	19,219,555	19,646,726
負債純資産合計	41,431,031	41,324,148

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年12月1日 至 2018年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年12月1日 至 2019年5月31日)
売上高	29,024,126	31,054,069
売上原価	22,891,643	24,305,072
売上総利益	6,132,482	6,748,996
販売費及び一般管理費	5,274,598	5,470,540
営業利益	857,884	1,278,455
営業外収益		
受取利息	730	726
受取配当金	21,650	24,736
受取賃貸料	27,357	22,858
持分法による投資利益	1,114	7,421
その他	53,549	66,939
営業外収益合計	104,402	122,682
営業外費用		
支払利息	11,471	12,244
賃借料	15,732	15,122
為替差損	13,250	33,956
その他	11,259	6,441
営業外費用合計	51,713	67,764
経常利益	910,573	1,333,373
特別利益		
固定資産売却益	36,620	44
投資有価証券売却益	—	1,250
特別利益合計	36,620	1,294
特別損失		
固定資産処分損	28,191	12,999
固定資産売却損	1,157	—
訴訟関連費用	7,262	—
特別損失合計	36,611	12,999
税金等調整前四半期純利益	910,582	1,321,668
法人税、住民税及び事業税	320,501	421,405
法人税等調整額	△38,120	2,330
法人税等合計	282,381	423,736
四半期純利益	628,201	897,931
非支配株主に帰属する四半期純利益	10,742	6,567
親会社株主に帰属する四半期純利益	617,459	891,364

（四半期連結包括利益計算書）

（第2四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2017年12月1日 至 2018年5月31日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2018年12月1日 至 2019年5月31日）
四半期純利益	628,201	897,931
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	54,726	△383,367
繰延ヘッジ損益	2,169	△3,456
為替換算調整勘定	△4,740	△11,972
退職給付に係る調整額	3,950	16,378
持分法適用会社に対する持分相当額	37	△229
その他の包括利益合計	56,144	△382,648
四半期包括利益	684,345	515,283
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	673,423	511,334
非支配株主に係る四半期包括利益	10,922	3,948

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年12月1日 至 2018年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年12月1日 至 2019年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	910,582	1,321,668
減価償却費	355,233	370,884
株式報酬費用	31,495	29,348
訴訟関連費用	7,262	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△628	△4,498
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	26,909	53,399
受取利息及び受取配当金	△22,381	△25,462
支払利息	11,471	12,244
為替差損益 (△は益)	12,107	29,087
持分法による投資損益 (△は益)	△1,114	△7,421
固定資産売却損益 (△は益)	△35,462	△44
固定資産除却損	28,191	12,999
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△1,250
売上債権の増減額 (△は増加)	443,816	191,918
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△509,506	△726,980
未収入金の増減額 (△は増加)	27,801	70,573
仕入債務の増減額 (△は減少)	△338,212	△223,103
未払費用の増減額 (△は減少)	40,555	△117,259
未払消費税等の増減額 (△は減少)	12,103	△5,171
前渡金の増減額 (△は増加)	40,060	△11,920
破産更生債権等の増減額 (△は増加)	5,622	—
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△49,624	13,462
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	228,479	△31,932
その他	25,677	17,112
小計	1,250,440	967,652
利息及び配当金の受取額	23,031	26,122
利息の支払額	△11,275	△12,308
法人税等の支払額	△264,041	△411,379
法人税等の還付額	31,749	8,329
訴訟関連費用の支払額	△7,262	—
役員退職慰労金の支払額	—	△10,080
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,022,641	568,336
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△221,906	△520,659
有形固定資産の売却による収入	32,765	44
無形固定資産の取得による支出	△111,132	△45,651
無形固定資産の売却による収入	16,200	—
投資有価証券の取得による支出	△105,569	△3,980
投資有価証券の売却による収入	—	8,450
事業譲受に係る前払支出	△441,000	—
その他	△31,298	△784
投資活動によるキャッシュ・フロー	△861,942	△562,582

（単位：千円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2017年12月1日 至 2018年5月31日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2018年12月1日 至 2019年5月31日）
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	—	200,000
長期借入金の返済による支出	△48,400	△48,400
自己株式の取得による支出	△1,198	△46
自己株式の売却による収入	16,748	25,603
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△90,407	△87,111
配当金の支払額	△150,506	△183,764
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による 支出	△122	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△273,887	△93,718
現金及び現金同等物に係る換算差額	△8,417	△24,104
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△121,606	△112,067
現金及び現金同等物の期首残高	4,729,048	4,540,309
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,607,442	4,428,241

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（追加情報）

（「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用）

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自2017年12月1日 至2018年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	医薬・FC	HBC	化学品	食品	計				
売上高									
(1)外部顧客への売上高	10,607,536	12,154,852	3,095,243	2,119,121	27,976,754	1,047,372	29,024,126	—	29,024,126
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	187,127	9,920	9,485	—	206,532	2,505	209,038	△209,038	—
計	10,794,663	12,164,773	3,104,729	2,119,121	28,183,287	1,049,877	29,233,165	△209,038	29,024,126
セグメント利益又は損失(△)	769,671	82,834	△2,832	△8,843	840,829	19,028	859,857	△1,973	857,884

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、動物用医薬品の卸売等でありませ

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,973千円は、棚卸資産の調整額によるものです。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間（自2018年12月1日 至2019年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	医薬・FC	HBC	化学品	食品	計				
売上高									
(1)外部顧客への売上高	12,029,212	12,350,739	3,505,029	2,179,518	30,064,499	989,569	31,054,069	—	31,054,069
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	157,306	7,275	25,946	—	190,528	2,106	192,635	△192,635	—
計	12,186,519	12,358,015	3,530,975	2,179,518	30,255,028	991,676	31,246,704	△192,635	31,054,069
セグメント利益又は損失(△)	1,226,249	35,395	14,218	△10,270	1,265,593	12,650	1,278,244	211	1,278,455

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、動物用医薬品の卸売等でありませ

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額211千円は、棚卸資産の調整額によるものです。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。